



第84回 日本皮膚科学会東京支部学術大会
モーニングセミナー3

在宅光線療法の 可能性について考える

2020.

日時

11月22日 8:30-9:30 ※会期中繰り返し配信しております

会場

WEB 開催

座長

川島 眞 先生
(東京女子医科大学名誉教授)

宮地 良樹 先生
(京都大学名誉教授)

MS3-

1

地域医療における光線治療のニーズ

三上 万理子 先生

横浜西口菅原皮膚科 副院長

MS3-

2

在宅光線療法の実用化に向けた取り組みと課題

森田 明理 先生

名古屋市立大学 大学院医学研究科
加齢・環境皮膚科学 教授

■ 聴講について

聴講できるのは、個人情報保護およびセキュリティの関係から、日本皮膚科学会の会員様のみとなります。
モーニングセミナー 3 は、会期中繰り返し配信しております。

(聴講方法)

1. 日本皮膚科学会ホームページもしくは、第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会ホームページの「第84回日本皮膚科学会東京支部学術大会 動画配信」バナーをクリックします。
2. 参加証記載の聴講用IDとPasswordを入力し、ログイン後、タイムテーブルに表示された聴講可能なセッションから、「モーニングセミナー 3」を選択します。

在宅光線療法の 可能性について考える

MS3-

1

地域医療における光線治療のニーズ

三上 万理子 先生

横浜西口菅原皮膚科 副院長

2005年開業時の全身型 Narrow Band-UVB (NB-UVB) 照射機導入をきっかけに紫外線療法に対して積極的に取り組むようになった。現在ではエキシマランプとターゲット型 NB-UVB : TARNAB® との3機種を組み合わせ、オーダーメイド治療を行っている。尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、尋常性白斑、菌状息肉症などの広範囲に亘る症例に全身型 NB-UVB、難治性病変には部分照射型機種を用いて、追加照射を行っている。TARNAB® は色素沈着を生じにくく、紅斑を誘導しにくいいため、特に白斑治療に用いることが多い。エキシマランプに対して反応しやすい症例でも TARNAB® であれば、果敢に治療に挑むことが可能であり、日常診療において欠かせない相棒となっている。今回は、白斑を中心に紫外線療法を行っている疾患に対して、どのように当院では対応しているか、その傾向を開業医の立場として、まとめたため報告する。光線療法が治療の要となっている患者は多く、今後、在宅治療が導入されることに大きな期待を抱いている。

MS3-

2

在宅光線療法の実用化に向けた取り組みと課題

森田 明理 先生

名古屋市立大学 大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学 教授

海外では在宅光線療法 (Home phototherapy) でナローバンド UVB 療法を行うことは、その臨床試験や治療実績から、治療効果、安全性については問題ないとされ、外来での照射と比べて、医療経済上のメリットや患者の QOL から考えると有利な点が多いとされている。皮膚科専門医療機関が遠距離にある場合や、仕事や学業などの理由で頻回な外来通院が困難な場合などは、在宅にて安全に治療が行えるようになることで、患者の治療に対するアドヒアランスが向上することも期待される。しかしながら現在本邦では在宅光線療法として薬事承認を受けた治療機器はなく実施されていない。当科では平成 29 年より AMED 医工連携事業化推進事業の協力を得て、在宅光線療法専用デバイスの開発と臨床応用に向けた検討を行ってきた。在宅光線療法開発の経緯と実績、期待される効果と実用化に向けた課題について紹介したい。